



北海道立大沼学園

〒 041-1355

北海道亀田郡七飯町字西大沼 8 番地

TEL 0138-67-2014

園長 赤坂 秀彦

この4月1日付けで大沼学園の職員となりました。どうぞよろしく申し上げます。北海道職員となり30余年、初めて生まれ育った道南で仕事に就くこととなり、それも初めての施設での勤務となりました。高校卒業まで函館で過ごしましたので、子ども時代から、時には車で仁山信号場駅を越え（記憶は定かではありませんが）、時には車で峠下のトンネルを抜け、当地へ訪れることもありましたが、悪さをして怒られるたびに当学園のことが引き合いに出されたような思い出もあり、大沼の地も、学園もそう遠くはない距離感で感じておりました。

コロナ禍の中、関係者、関係機関の方々へのご挨拶もままならない状況のまま、学園に着任し日にちがたちましたが、ご挨拶が叶った方々からは、学園へのお気遣いや思いが深いこと、また、それが世代を超えて連綿と続いていることが伝わり、学園と大沼地域、道南地方の方々との繋がりや深さを改めて感じているところです。

北海道職員となってからは児童相談所での勤務が比較的長く、非行等により家庭での養育が難しい子どもたちを施設にお願いする措置機関の一員として、外側から学園や家庭学校といった教護院（現在の児童自立支援施設の前身）と関わる立場にありました。

実際に学園の一員となって感じたことは、入所する子どもの様変わりです。施設の名称やその目的が改められたことも確かにありますが、私が駆け出しだった頃は、非行傾向がある子どもがメインであり、生活環境を換え、密接な指導の下、より望ましい対人関係や社会的な決まり事を学ぶために、学園へお願いする子どもたちが多かったように思いますが、今は人や社会との関係性の問題というよりは、自分自身の課題の比重が重くなっているように感じます。当然周囲からの刺激は同様にあって、自分の思い通りにならなかつたり、とがめられたり、嫌がらせがあったりして、行動が荒れるのは同様ですが、相手への怒りや、威嚇・反抗という意味合いからの行動というよりは、自分自身の中で収めきれず、抑えきれない感情や情動といったものが表にあふれ出してしまい、それが結果として人や物にぶつかっていくような感じで、生来的な要因も大きく、さらにそれと環境的なものがうまく折り合わない結果、学園で生活することとなった子どもが多くなった気がするのです。

本来学園は、子どものために調整された、ルールなどがわかりやすい小さな社会であり、そこで、濃密な指導を受けながら集団生活をする中で、学びきれなかったことを学んでいくことが、その特長としてあるように思っていたのですが、最近増えてきたこうした子どもたちは、時として、集団より個別的な生活や指導形態の方が安定しやすいことも多いことから、従来の学園の特長と最近の子どもたちへの支援のバランスをいかに取っていくのか、さらに、子どもの権利擁護が強く求められている現状も踏まえ、どういった指導をしていくべきなのか、今後、学園のことを内側から知りながら学び、実践していければよいなと考えています。

新任職員の紹介（新しく大沼学園に着任された職員）

「新任職員の紹介」

今年度は、5人の職員を迎え入れました。今年度は、湖畔第一号で職員の自己紹介をさせていただきます。

職・氏名	前所属
園長 赤坂 秀彦（あかさか ひでひこ）	旭川児童相談所
自立支援課長 内田 智能（うちだ ともよし）	釧路児童相談所
専門主任 田中 伸章（たなか のぶあき）	新採用
児童自立支援専門員 中田 太一（なかた たいち）	新採用
福祉指導員 佐藤 淳哉（さとう じゅんや）	新採用

「3回目の赴任」

自立支援課長 内田 智能

4月1日付けの人事異動で釧路児童相談所から大沼学園に赴任しました。私はこれで3回目の大沼学園勤務になりますが、赴任の度に学園の中が大きく変わっています。前回の赴任の時は学校教育の導入、今回の赴任では交代制寮の導入です。組織が変わっただけでなく、入所している児童の質的变化も強く感じています。分校の先生方とも連携し、生活支援をベースとしながら、個々の児童の特性や入所に至るまでの様々な逆境体験に配慮した支援を展開し、入所児童が退所後に「大沼で生活してよかった」と思える大沼学園にしていきたいと思っております。どうぞ、よろしく願いいたします。

「よろしく願いします」

専門主任 田中 伸章

48歳のルーキーとして4月から大沼学園でお世話になっております。私は旭川近郊の鷹栖町で小学校公務補として在職していた時、もっと子どもとかかわる児童福祉の仕事を目指し、2年間の通信教育で社会福祉士の資格を取得しました。その後、鷹栖町社会福祉協議会での就労支援員、知的障害者支援施設である当麻かたるべの森で生活支援及び就労支援での在勤中、本年度の道職員採用試験を経て、皆様と共に勤務させていただけるご縁に恵まれました。

初めての地域で初めての仕事、また夫婦生活21年目にして初めての単身赴任と、今の心境はワクワクと不安が半々というところです。私の志にはまだ続きがあり、将来的には妻と共に専門里親、もしくはファミリーホーム立ち上げ運営を目指しています。ここ大沼学園で子どもと共に、多くのことを学び成長させていただき、必ず夢の実現を目指し頑張ります。どうぞよろしく願いします。



「社会人一年目」

児童自立支援専門員 中田 太一

4月から大沼学園で勤務することになりました中田太一と申します。社会人一年目ということもあり、右も左も分からない状態でのスタートとなりましたが、周りの職員や児童に支えられ、日々の業務に当たっています。

私は八雲町が地元ですので、配属が決まったときは胸を撫で下ろすような気持ちでした。しかし勤務をしていると、私一人では対処できないことや、児童との関わりの大変さを思い知らされました。大学時代に培った知識に大沼学園での経験を加え、私にできることを増やしていき、児童・職員から信頼される職員になりたいと思っています。まだまだ未熟ですが、私も大沼学園での生活を通じて児童と共に日々成長していきたいと考えています。

「初めての社会人」

福祉指導員 佐藤 淳哉

今年度より大沼学園でお世話になっております、佐藤淳哉と申します。私は18年間福島県で過ごし、その後札幌市での学生生活を経て、今回七飯町で社会人生活をスタートさせました。赴任当初は、突如都会から大自然に放り込まれたような心境で、不安な思いで一ヶ月間を過ごしましたが、風光明媚な環境の中で子どもたちと過ごす日々、細やかな充実感を抱きつつあります。

一ヶ月間の学園生活で感じたことや今後の抱負についてですが、まずは、人間の育ちを教育と福祉の両面から支える機能が同じ施設の中に備えられている点は、実に興味深いものです。二つ目に、子どもたちと営む時間について、各人の特性を踏まえた関わりには難儀する場面も多いですが、都度進歩を発見しその素晴らしさを上手く伝えられるように磨いていきたいと考えております。そして、共に生きながら、私もまた成長するチャンスをこの地で掴んでいきたいと考えております。

皆様どうぞよろしくお願いいたします。



新任教諭の紹介（新しく鈴蘭谷分校に着任された先生）

七飯町立大沼岳陽学校鈴蘭谷分校 教頭 深山 裕一

この度、4月の異動で七飯町立七飯中学校から赴任いたしました。赴任して2ヶ月あまりが過ぎ、この間、緊急事態宣言が発出され、運動会の実施が危ぶまれましたが、無事終了することができてほっとしているところです。子どもたちも一回り成長できたように感じます。また、大沼学園と鈴蘭谷分校の先生方の熱意あるご指導にはいつも頭が下がる思いです。今後も学園と分校の先生方と連携を密にし、初心に帰って鈴蘭谷生の成長のサポートをしていく所存です。どうぞよろしくお願いいたします。

七飯町立大沼岳陽学校鈴蘭谷分校 教諭 高木 俊明

赴任してから二か月が過ぎました。いまだに、これまで経験してきた学校とは違う体制や環境に戸惑っておりますが、目の前の子どもたちに対して自分なりに積み上げてきたことを少しでも活かしていけるよう努力を続けていきます。学園には教育や福祉の分野で力のある教職員がたくさんいらっしゃいます。見て学んで実践につなげていこうと考えています。よろしくお願いいたします。

七飯町立大沼岳陽学校鈴蘭谷分校 教諭 黒谷 涼子

この度、大沼岳陽学校から鈴蘭谷分校に赴任しました。今までの勤務校とは異なる事が多く、私自身、勉強になることがたくさんあります。慣れるまでもう少し時間がかかりそうですが、大沼学園の職員の皆様や鈴蘭谷分校の先生方に色々なことを教えていただきながら、子どもたちのために頑張ります。どうぞよろしくお願いいたします。



令和2年度卒業生激励会

児童自立支援専門員 松山 一也

今年度も、新型コロナウイルスの感染防止の観点から、会場内での会食を見送ったため、例年より小規模の実施となりました。しかし、前年度は叶わなかった鈴蘭谷分校の先生方が出席でき、暖かい雰囲気を作り上げることができました。

激励会では、中学3年生の門出を応援するべく、各寮それぞれのダンスや劇、お笑い等の余興で楽しませてくれました。余興場面では、いつもと表情の異なる児童も多く、新たな児童の一面を見つける機会ともなりました。激励会が進むにつれて、手拍子も自然に生まれ、場内が一体となり、暖かい雰囲気に包まれた一方で、中学3年生の最後の雄姿にどこか寂しい表情を浮かべた児童たちもいました。

大沼学園で生活した年月に違いはあるものの、各々が入所してきたときと比べ、大きく成長した姿を見せてくれたことに喜びを感じました。また、そうした姿を目にした下級生は、卒業生の良さを吸収し、大きな成長に繋げてほしいと願っています。



令和2年度卒業証書授与式

児童自立支援専門員 中山 雄太

道内の児童自立支援施設は、卒業前（高校を受験する場合は12月）に学籍を分校から地元の学校へ異動させます。地元の学校から卒業証書を交付してもらうためです。そのため卒業式ではなく、卒業証書授与式と呼ぶのです。例年は、在籍する地元の学校長が式に出席し、それぞれの卒業生に卒業証書を授与します。

3月22日、1名の小学生と6名の中学生が在籍校の卒業証書を受け取り、卒業の節目を迎えました。今年も前年と同様に、新型コロナウイルス感染症の予防対策のため、来賓や関係機関の参列を中止して、卒業生、在校生、保護者、分校教職員、施設職員のみとしました。そのため、卒業証書も在籍校の校長からでなく、分校の校長から全員に手渡されたのです。

今年は式の前後に退園した3名を合わせて、3月に在籍した9名の中学3年生のうち8名が高校進学を希望して受験。全員が合格しました。あとの1名は就職を希望し、地元で就職先を確保できました。小学生は家庭に戻り、地元の中学校へ進学します。

子どもたちにとって退園は、喜びであるとともに、未知の世界への新たな出発であります。在園中はどんなときでも職員や教員の介入と手助けがありましたが、退園後はその手を離れます。職員や教員にとっても不安であり、高校を卒業してほしい、仕事を続けてほしいという思いはみな同じものです。卒業生全員の前途を祝福します。

最後になりますが、函館心の里親会のみなさまには、卒業生に対する個別のお祝いの品物を頂戴し、心からお礼申し上げます。



各寮紹介

芝蘭寮

寮長 斉藤 利昭

昨年度は5名の生徒が退園していきました。卒業式後に残った生徒は2名となりました。それまでは7名の子どもたちと共に暮らしているのが当たり前の日常で、5名もいなくなったときは、まさに心に大きな穴がぽっかりと空いた状態になりました。5名の生徒が無事に退園できたことで、ホッとした気持ちと寂しさが入り交じったような複雑な気持ちでしたが、4月5日に新入生が来ました。今年度は3名のとても静かなスタートです。恐らく、私が寮を持たせていただいてから3名のスタートは初めてです。私や寮母も久しぶりに寮内の掃除や係事に取り組みました。子どもたちが、日々当たり前のように掃除や係事に取り組んでくれたことが、いかに大変でありがたい事だったかが身にしみて実感できました。本来的には、私たち職員が子どもの支えとならなければいけないのですが、実は私たちの仕事や暮らしには、必ずと言って良いほど子どもたちに支えられています。そのため、共に暮らしを支え合う「人」として、互いを大切にしていけるような関係を築いていけるように心掛けたいと思います。今年度も分校の先生方を始め、学園の先生方や関係者の方々、地域の方々のお力を借りながら、生活支援を展開していきたいと思っています。よろしくお願い致します。

蛍雪寮

寮長 伊藤 凌

交代制となって今年で3年目となった蛍雪寮は、現在5名(小学生2名、中学生3名)で運営しています。新型コロナウイルスの影響が依然残っている中で、日々自分の課題と向き合う子どもたちと、共に成長していく1年にしていきたいと思っています。

子どもとの関わりの中で、子どもが自分に向き合うと同時に、私も自分自身と正面から向き合う場面があります。「独りよがりな指導はしていないだろうか」「誰がいつ見ても恥ずかしくない姿でいるだろうか」「自分が子どもの時に憧れた大人に、今の自分はなろうとしているだろうか」と、常に葛藤しています。一方的に指導するのではなく、一人一人と向き合っていく中で、なりたい自分、子どもが憧れる大人を目指し、日々の研鑽に努めていきます。

これからも偉大な先人の知恵をお借りしながら、粘り強く子どもと向き合っていきたいと思っています。

晩翠寮

寮長 山口 大輔

今年度の晩翠寮は3人スタートでした。一人は小学生、一番長い子で4ヶ月、例年多かれ少なかれ似た状況にはなりますが、今年は大変だなあと感じてから早数ヶ月、何とか回るものです。大きなことなく日々過ごしていけるのは、成長した、今も成長し続けている子ども達のおかげということを実感しています。

昨年度は新型コロナのため行事も軒並み中止に追い込まれ、苦い思いをしました。今年もウイルスの猛威は続いています。昨年後半から少しずつ、様々なことに配慮し対策を講じた上で開催することが出来るものも出てきました。今年度については、運動会は無観客と若干寂しいものながら開催することが出来ました。

世界的規模で人の流れ、人との関わり、世の中の仕組みを見直さざるを得ない大波の中、日本の、北海道の、道南の片隅にあるここ大沼学園でも、様々なことを見直し、改めながら試行錯誤していく日々が続いています。子ども達がこの大波のなか、無事巣立っていけるよう、今後も大沼学園に暖かいご支援をよろしくお願いいたします。

行事報告

湖畔第一号では、6月に実施された運動会・登山遠足について、それぞれ職員のコメントや各寮で児童が書いた作文、写真とともに掲載します。

運動会

児童自立支援専門員 藤田 怜

令和3年度第13回大運動会は悪天候のため、七飯町立大沼岳陽学校の体育館での開催となりました。また新型コロナウイルスの感染拡大防止に伴う緊急事態宣言が発令されたため、無観客で実施されました。昨年は新型コロナウイルスの影響で中止となった運動会ですが、今年度は計画の段階から新型コロナウイルス対策を織り込み、対応を検討してきました。実際に運動会の一週間前に緊急事態宣言が発令されましたが、事前に想定していたため、問題なく開催することができました。



子どもたちは本番に向けて日々グラウンドで汗を流しておりましたが、無観客、そして体育館での実施とモチベーションを保つのが難しかったと思います。それでも今年度のスローガンである「One for All」の精神で鈴蘭谷分校の先生方や学園職員、そして何より子どもら同士が支え合いながら、気持ちの切り替えを時間をかけて行い、本番は自分たちが出せる全てを出して取り組んでくれました。

「運動会の感想」

僕は運動会で、紅組リーダーをやりました。皆をまとめる役としてやらせてもらったけど、今思えば、あんまりまとめられなかったと思います。僕は学園でいろいろな人をまとめる役割をやらせてもらっています。でも、あまりまとめるのは上手ではないし、好きでもありません。だから、学園で頑張りたいです。

運動会では負けてしまったけど、皆で一つになって何かしたことは思い出の一つになりました。

中3 シュウヤ君

「運動会」

僕は、ここで二回も運動会をやりました。まず、新型コロナウイルスが流行している中で運動会ができたことが良かったと思います。今年は白組のキャプテンをやりました。それで感じたことは、一つの集団をまとめるのは難しいということです。今年の運動会は、天候に恵まれず、体育館で行いました。とても残念でした。でも、その中で自分がやらないといけないことをやったり、外ではできなかったけれど、みんなが全力を尽くして行えた良い運動会だったと思います。来年の運動会は天候に恵まれ、そして多くの保護者や児童相談所の先生方や地域の人に見てもらいながら実施できるようになればと思っています。

中3 ツバサ君



「運動会について」

運動会の競技を聞いたとき、初めて聞いたものがほとんどでした。そして説明を聞くうちに内容がわかってきました。特に練習で大変だったのは「横ムカデ」です。みんなで息を合わせないと転ぶので、ものすごく大変でしたし、足首がとても引っ張られたので、とても痛かったです。「リレー」や「徒競走」といった競技は、知っていたので、分かりやすかったです。「運命走」は、何を本番で引くのかとてもドキドキしました。「障害物競走」は跳び箱や、ハードルをやり、風船を割ったりすると聞いていたので、簡単だなと思いました。「応援合戦」は何を言えば良いのかとても悩みました。声を大きく出すのは得意なので大丈夫だなと思いました。練習では声をたくさん出しました。

そして総練習はとても大変で、終わった後にどっと疲れがきました。横ムカデは最後まで転倒せずにゴールできたのでよかったです。そして前からずっと天気のことを気にしていて、天気予報では雨と出ていたので、

心配になりました。その予報通り、前日の大雨でグラウンドが水たまりになり、残念な気持ちになりました。そして、運動会は体育館で行うと言われて、不安になったけど、説明を聞いてわかりました。

本番では、両チームも勝つことと「one for all (一人はみんなのために)」を掲げて、一人一人が全力でやりました。結果は負けだったけど、素晴らしい運動会と思いました。

これをきっかけに何にでも全力で努力しようと思います。そしてみんなが楽しくやっていたことが嬉しかったです。これを踏み台にして、退園に向かって頑張りたいと思います。

小6 ライム君



登山遠足

児童自立支援専門員 中山 雄太



令和3年度登山遠足は函館山に登りました。去年は新型コロナウイルスの影響で中止となった登山遠足ですが、今年度は新型コロナウイルス対策を考え、対応を検討してきました。

当日は天気が良く気温も高く、子どもにとっても職員にとっても大変でしたが、登山途中や頂上での景色はとても綺麗で気持ちの良いものでした。子どもたちは注意されることや揉めることもなく終始笑顔で楽しんでおり、とても楽しい登山遠足となりました。

「登山遠足」

6月11日は登山遠足がありました。みんなと話をしながら登れたので楽しかったです。登るのに疲れたけど、最後まで諦めないで登りきれました。行きたくないって気持ちもあったけど、みんなと登れたから頑張れました。次登るときは文句を言わないで、頑張って登りたいです。

中1 キョウスケ君

「登山の感想」

僕は今日、初めて函館山に登りました。当日は、まだ世界でコロナウイルスが流行していて、遠足が実施されるのかわからない状況だったけど、行けると聞いたときは一番嬉しかったし、行けたことに感謝したいです。函館山に登ってみて良かったことが二つあります。一つ目は、みんなで山頂まで登れたことです。二つ目は、砲台跡地の近くで、みんなでご飯を食べられたことです。お昼ごはんのデザートに先生方がアイスを持ってきてくれました。アイスは最高においしかったです。今日の貴重な経験のことは、ここを出ても忘れないで、心に残しておきたいです。

中3 マサト君

お世話になりました

退職

(令和3年3月31日付)

米田 浩二
木村 正和

異動

(令和3年4月1日付)

阿波加 忠純 向陽学院
片石 健太 保健福祉部子ども未来推進局子ども子育て支援課
平田 俊一 保健福祉部総務課

ご寄付食品等

皆様のご厚情に心より感謝申し上げます。

(3月1日～6月30日)

七飯更生保護女性会 様 (七飯町)
財津自工 様 (七飯町)
大沼親父会 様
リード不動産 渡辺友子 様

東海林学 様
澄マサノ 様 (函館市)
プリンスホテル 様

石栗勝也 様
敬楽荘 様
心の里親会 様

編集後記

今年度は、新型コロナウイルスの影響も受けながらも、昨年度は実施できなかった運動会や遠足、園外活動などの多くの行事を無事開催することが出来ました。各行事で見せる子どもたちの姿は、普段の生活で見せる一面と比べ、よりエネルギーに満ちあふれており、非常にたくましく映ります。

寮生活においても、仲間や職員と共に努力を重ね、毎日必死になって生活を送っています。楽しい時間もつらい時間も仲間と共有することで、一歩ずつ確実に歩みを進めています。

我々職員もそうした子どもたちと共に歩み、一分一秒を大切に、共に成長していこうという気持ちで日々の業務に励んでいます。子どもたちは皆、いつか大沼学園から巣立っていきます。ここでの多くの思い出や学びをいつか形にしてほしいと強く願っております。

最後になりますが、子ども達や、我々職員が伸び伸びと出来るのは、支えてくれている関係機関の皆様、地域の皆様、保護者の皆様のおかげであります。今後とも、応援よろしく申し上げます。

児童自立支援専門員 高間 拓希

学 園 の 動 向

令和3年3月～6月

3月

- 1日 公立高校受験のため8名許可外泊
- 3日 荒天のため公立高校入学試験が4日・5日に延期
運営会議
中央児相・海野寿児童福祉司、勝沼智子児童福祉司児童移送のため来園
- 4日 公立高校7名受験 ～5日
- 8日 内科検診
- 10日 職員会議 避難訓練
- 11日 理髪
- 16日 公立高校合格発表 8名全員合格
- 17日 給食会議
- 19日 卒業生激励会
- 22日 卒業証書授与式
- 23日 岩見沢児相・中澤睦子児童福祉司、齊藤公伸判定援助係長児童移送のため来園
札幌市児相・本田祐亮児童福祉司児童移送のため来園
- 24日 修了式 離任式（分校教職員4名当園職員5名）
- 25日 買い物訓練（芝蘭寮）
- 29日 室蘭児相・赤木諄児童福祉司面接調査のため来園
- 31日 4月1日付け退職及び異動辞令交付

（3月 入所2名／退所12名）

4月

- 1日 田中伸章専門主任、佐藤淳哉福祉指導員、中田太一福祉指導員、勝田雄二児童自立支援員（非常勤）着任（以上学園）
深山裕一教頭、高木俊明教諭、黒谷涼子教諭、堀木事務員着任（以上分校）
- 2日 赤坂秀彦園長着任
- 5日 内田智能自立支援課長着任
室蘭児相・伊藤嘉章主任児童福祉司、山川啓太判定員、松田保育士児童移送のため来園
- 7日 着任式 始業式
- 9日 運営会議
堀木清隆事務員退職（分校）
- 12日 授業参観日
- 14日 学力テスト（中学生） 給食会議
- 15日 職員会議

- 19日 内科検診
- 21日 支援会議 歯科検診
医学診断（加藤囁託医）
- 22日 避難訓練
- 23日 尿検査（1次）
- 25日 湖畔清掃
- 29日 蛭雪寮園外活動（湖畔サイクリング・温泉入浴）
- 30日 振替休校（分校）

（4月 入所2名／退所0名）

5月

- 1日 晩翠寮園外活動（湖畔サイクリング・温泉入浴）
- 2日 理髪
- 4日 各寮園外活動（駒ヶ岳登山、温泉入浴、釣り、公園散策）
- 10日 岩見沢児相・杉本敦子ども支援課長、富樫悦子児童福祉司面接調査のため来園
- 11日 室蘭児相苫小牧分室・田中美佐保児童福祉司、長谷川美雪児童福祉司面接調査のため来園
- 12日 運営会議 環境整備活動
- 13日 支援会議 耳鼻科検診
芝刈り機実務講習（中3生対象）
- 14日 尿検査（2次）
- 16日 児童1名無断外出
- 17日 内科検診 心電図検査（中1）
室蘭児相・宮下靖司主幹、五十嵐弘妃児童福祉司児童移送のため来園
- 19日 職員会議 給食会議
医学診断（加藤囁託医）
- 20日 運動会総練習
- 22日 運動会（グランドコンディション不良のため大沼岳陽学校の体育館を借用。新型コロナウイルス感染防止のため無観客で実施）
- 24日 振替休校（分校）
- 25日 眼科検診
- 26日 職員会議 支援会議
避難訓練
- 27日 全国学力調査（小6・中3）
- 31日 室蘭児相苫小牧分室・田中美佐保児童福祉司、鈴木了栄判定員児童移送のため来園

（5月 入所1名／退所0名）

6月

- 1日 衣替え
内田自立支援課長、斉藤専門主任児童移送のため室蘭児相訪問
- 3日 野球部園外活動（北斗市の野球場で練習）
- 9日 岩見沢児相・杉本敦子ども支援課長、鈴木さやか児童福祉司児童移送のため来園
- 10日 来園
- 11日 運営会議
- 14日 職員会議
函館山登山遠足（分校）
- 16日 家村昭矩元園長所用のため来園
避難訓練
- 17日 家村昭矩元園長所用のため来園
支援会議 給食会議
- 21日 医学診断（加藤囑託医）
内田自立支援課長一時保護中の児童のコンサルテーション及び面接のため
- 22日 三恵病院訪問
- 24日 内科検診
- 25日 函館心の里親会からイチゴ寄贈
- 30日 期末テスト（中学生）
札幌市児相・小田いくえ児童福祉司、山田祐太児童心理司面接調査のため来園
期末テスト（中学生）
眼科検診

（6月 入所0名／退所0名）

